



Tokyo Tech

東京工業大学 産学協働プログラム  
「人生100年時代の都市・インフラ学」

# 人生100年時代の豊かな ライフシーン Vol.1

## チーム⑤：自然とのつながり

座長：中尾俊幸（株式会社アール・アイ・エー）

担当教員：鼎信次郎

2021年2月25日  
資料作成：坂村圭

これから3回のワークショップが目指すこと

## 人生100年時代の豊かな自然とのつながりを創出する 都市・インフラのデザイン要件の抽出

- －自然とのつながりが生み出す「豊かさ」とはどのようなものを説明できるようになる
- －人生100年時代の「豊かな」自然とのつながり方を想定できるようになる
- －人生100年時代に自然とのつながりから「豊かさ」を創出するために、都市・インフラがどのような要件を満たすべきかを理解する

# 「豊かさ」をデザインする

例えば、「これから50年を見据えた、豊かな自然とのつながりを生み出すスペースをつくりたい」という依頼を受けたときに、その空間をどのように設計・計画しますか。

どのような人が集まるように設計しなければならないか、どのような活動を生み出したいか。そのためには、どんな機能が必要で、どれぐらいの面積が必要となるか・・・。

もちろんそれぞれのプロジェクトでは、クライアント、敷地要件、予算などが異なるため、このような問いには、画一的な答えはありません。それでも、それぞれのプロジェクトで満たすべき、豊かな出会いやコミュニケーションを創出するための「デザイン要件」や「検討事項」にはいくつかの共通点が存在しているのではないのでしょうか。

本ワークショップでは、「豊かなライフシーン」を切り口に、都市・インフラが備えるべきデザイン要件を議論、抽出することを目的としています。



豊かさの事例を  
集める



パターンや構造  
を理解する



通底する概念や  
ビジョンを応用  
する

## 本日の中心的な議題

### 自然とのつながりが「豊か」とはどういうことか

- －自然とのつながりから感じる「豊かさ」を自らの経験から掘り起こしてみる
- －グループ内で意見を共有して「豊かさ」を構成する多様さと共通する要素を議論する
- －自然とのつながりの豊かさに影響を与えるコトやモノを把握する

---

#### 【次回以降の議題】

第2回：人生100年時代に自然とのつながりはどのように変化していくべきかを人の豊かさから考える

第3回：人生100年時代の自然とのつながりを支える都市・インフラのデザイン要件を考える

# 本日のタイムスケジュールと進行について

## ○タイムスケジュールと進行

ワークショップの全体時間は3時間(14:00-17:00)です。進行や時間配分はグループ座長に一任させていただきます。

事務局からはチーム内で行っていただきたい議題（ワーク）を数点提示させていただきます。この議題を中心に自由に議論を行ってください。

## ○本日議論していただきたいこと

- （work1）自己紹介
- （work2）豊かさを自分の経験から掘り起こす
- （work3）全体ディスカッション

## ○本日の記録とその共有について

議論いただいた内容はビデオ記録を残すだけでなく、書き起こしを事務局で行います。これらの結果は人生100年のホームページでアーカイブさせていただきます。

## 【Work 1】

# 自己紹介

---

新しいワークショップのはじまりです。まずは自己紹介を行いましょう。  
お名前、ご所属、最近の趣味、好きな食べ物など・・・

**一人2分程度**で自己紹介をお願いいたします！

## 【Work 2】

# 豊かさを自分の経験から掘り起こす

---

個人的な経験から自然とのつながりの豊かさを考えてみましょう。

「豊かさ」を感じた自身の自然とのつながりの経験を思い返して、ノートに書きだします（20分程度）。

ノートの内容がまとまったら、zoomのチャットに書き込みを行ってください。  
全員の書きこみが終わったら、一人2分程度で発表を行います。

## 自分の経験を掘り起こす

まずは、深呼吸をして、心を落ち着けます。

心の準備が出来たら、ゆっくりと自身の「豊か」な自然とのつながりの経験を思い返してみましよう。

ぼんやりと風景が浮かび上がってきたら、そのなかでも特に鮮明な記憶を一つ選んで、できる限りその場所に留まり、探検をしてみます。

どのような場所にあなただけいますか。

それはいつの出来事でしたか。

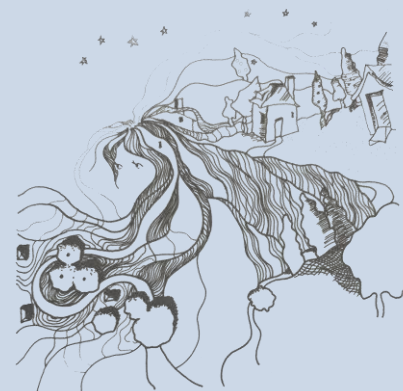
あなたは何をしていましたか。

誰と一緒にいたときのことだったでしょうか。

どのような会話をしましたか。

準備が出来たら、そのイメージを絵にしてみます。上手に書く必要はまったくありません。絵の中には必ず注釈をつけて、細部の特徴を言葉にします。

最後に、なぜその経験を「豊か」と思ったのかを改めて考えてみましょう。



【メモ欄】

Title :

いつのこと： 年 月 (朝・昼・夜)

何をしていた時：

どこで： (室内・屋外)

誰と一緒にいる：

何がみえる：

どんな音が聞こえる：

なぜ豊かだと思ったか：



## 【Work 3】

# 全体ディスカッション

---

グループ内の発表をもとに、ライフシーンの「豊かさ」の多様性と共通点を考えてみましょう。また、どのような事柄（時間、場所、相手・・・）が「豊かさ」に影響を与えるかを話し合ってみましょう。  
その他にも、気になったことは何でもグループ内で共有してください。

## 議論してみたら面白いかもしれないこと

### ○自然とのつながりを分類するとしたらどのような分け方があるか

自然とのつながりは、自宅のなかの観葉植物、公園の整った芝生、郊外の里山の木々など、様々な場面に存在している。このように場面や状況が異なると、そのときに期待する人と自然とのつながりや、自然のあり方、そして豊かさも異なってくるのだろうか。

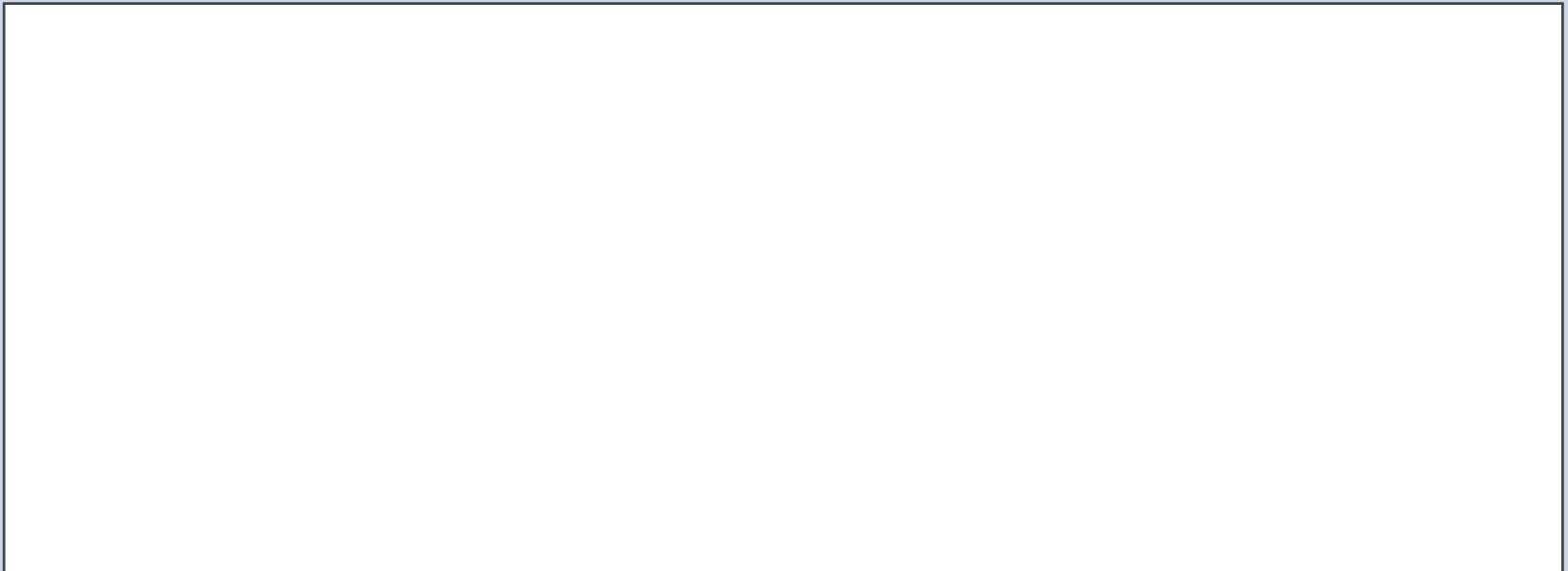
豊かさを切り口にする場合、自然とのつながりかたをどのように分類すると良いだろうか。

### ○私たちと自然との相互の奉仕の関係

同じチューリップをみても、自分で育てた人はそうでない人よりも多くの豊かさを実感できる。これまで生態系サービスとして様々な自然の機能が指摘されているが、人の豊かさを考える上では、自然への奉仕や、自然からの奉仕という相互作用にも着目する必要があるのではないだろうか。都市のなかで市民が身近に触れ合うことのできる自然を創出することの価値を改めて考えてみたい。

## 本日のまとめ

自然とのつながりの「豊かさ」とは



である。